



わかり合うためのコミュニケーション～「対話」の大切さ～

校長 土屋 智樹

新学期が始まって1か月がたとうとしています。4月初、2年生以上は、クラス替えにより、また1年生は、入学により、それぞれどの学級でも、学級や学校生活のきまりやルールが前年度と違ってることが往々にしてあります。また、新しい先生や友達との関係性を一から作り直すことも場合によっては必要となってきます。そこで、担任は、これから1年間お互いに気持ちよく生活するためのルール作りや約束事の確認をはじめ、教師と子どもたち、子どもたち同士の良好な人間関係づくりの構築に何よりも心を砕いてきました。そして、少しずつ担任の学級経営が、軌道に乗ってきているように感じています。

しかし、そう簡単にいかないことも多く、約束事を万全に確認したとこちらが思っているにもかかわらず、ルールや約束事をめぐって子どもたち同士のちょっとしたトラブルなどは、起きます。その時、問題解決を図る上で大切なことは何でしょうか。それは、相手との対話です。対話とは、お互いの立場や意見の違いを理解し、そのずれをすり合わせることを目的として行われるものです。しかし、問題解決のための対話は、時に時間がかかるものです。対話が進まない時、「時間をかけないで手短かに済ませたい」「対話しなくても結論をすぐに伝えて解決を図りたい」と思うこともあります。

果たして対話をすることの意義は一体何でしょうか。5つの五輪メダルを獲得し、現在は指導者として活躍している武田美保さんの「苦しい時期を乗り越え、手に入れたコーチとの対話」というコラムでは、コーチングの大切さを訴えています。武田さんは、現役の選手時代、コーチだった井村雅代先生とのコミュニケーションの取り方に大変悩んだそうです。武田さんの話によると、その当時、コーチとの双方向のコミュニケーションを取っている感覚はなく、教え授けられるだけの「インプット一辺倒」でした。当時は言われた通りやっているつもりなのに「できていない」と言われ、「なぜ？」という気持ちで苦しみ、このままでは続けられないと思ったそうです。しかし、井村コーチとの対話を重ねた結果、どんどんと結果が出るようになり、苦しい時期を乗り越えることができたそうです。私は、対話をするものの意義は、お互いの価値観や考え方を知り、対話を重ねれば重ねるほど、どのような意見でも尊重し合える信頼関係が築かれていくことにあると思います。武田さんと井村さんが、選手とコーチの立場を超えてお互いわかり合うためのコミュニケーションを図ることで、井村コーチが武田さんの持っている良さを引き出すことができたのではないかと思います。

今、あらゆる指導の場で、以前の教え込むやり方から、本人との対話を重視する方法へと変化が起こっているとされています。私たち教職員も、「教え込む」「指示する」といったティーチングではなく、子どもたちの自主性・主体性を促す伴走者として、コーチングの姿勢で子どもたちに接していきたいと思っています。今、担任は、子どもたちと対話を重ねながら一つずつ学級を作り上げている最中です。お互いが尊重し合える信頼関係を築いていけるよう努めて参りますので、教職員と子どもたちの営みを温かく見守っていただけたら幸いです。



1年生を迎える会より